

### 人呑んだ海ケロリツと夏終る

日本、四面海に囲まれたこの四ツ島の夏は、湿気、不快指数の上昇に、毎日、いらいらする日の連続。夏になると青少年の非行も急激に多くなるのも、ここに原因があるかも知れない。

夏に海に多くの人達がくり出し、真赤に焼けて帰ってくる。海は、毎年多くの人命をうばう。人間の不注意に起因するところで海に責任はないとも、かも知れない。夏も終り平常に戻る海は、その自然の静まりかえっている。

### 死ぬ運命人の世へ蟬泣きに くる

夏の楽しい行事に虫取りがある。最近では農薬などによつて虫が少なくなっている。市内のデパートではカブト虫が150円になる。ウソのような話である。夏の中で、その長い地中のくらしから陽をあびて、人間の社会に夏を告げて死んで行く蟬の一生はなんとほかないものであろう。

### 天高くモノみな肥る秋となり

暑い日中の暑さも、九月の声をきくと何んとなく秋らしく、天高肥馬の候になる。しかし、最近では馬が少なくなつて馬肥ゆるの表現がビタリと感じられないようである。生物ごとごとく熟し肥

っていくのもこの秋で、若い娘には気の毒だが、人間本の食欲の秋は、自然にそうゆう形になつて表われてく

### 台風がまたねらつてる四ツの島

台風と台風、島国日本に課せられた宿命ともいわれるこの季節性低気圧は、毎年、どこかに上陸して人間の小さな営みを無惨にも破壊し悠々と去つてしまふ。交通、道路、住宅、突り、人命までも瞬間にして奪い去っていくこの暴君は、現代の科学の力をもつても防ぎようのない自然現象の強大なエネルギーである。

### 十五夜の月が照れてる甘い恋

陰暦9月15日は中秋の名月、昔からお月見と呼ばれ親しまれてきた行事である。最近、いろいろの行事が新暦で行なわれるようになってきたけれど、このお月見だけは当

てはまらない。茫の穂をそなえたり、お団子をあげたりしてこの名月を觀賞するのであるが、近ごろは、世の中が私達のくらしが忙しくなつてしまつて、名月觀賞などあまり関心のないようである。もつとも、最近の都会の煤煙や排気ガスに霞む夜空のぼやけたお月様では、お月見の興趣も起らないだろう。

### 生きてる幸としよりの日の笑い

9月15日はとしよりの日、最近、人間の寿命が伸びてきた結果、老人が多くなり各家庭でも、老人を巡つていろいろの問題が多くなつて、老人よ何処へ行くといつた

話題を提供し、老人対策は社会問題として発展してきている。この日は、各地で敬老会などの催があつて老人を励まし慰めるためにいろいろの趣好がこらされる。世の中には幸福な老人、不幸になげく老人などいろいろあると思われるが、この日ばかりは晴れて老人らしく扱われる。長が生きしてよかつたと思うような老人生活が送られる社会であつてほしい。昨年10月1日の国勢調査の70才以上の数は、88,605人ありうち男35,393人、女53,212人で女が圧倒的に多い。また、100才以上は4人でいづれも女性である。

### 統計の表現しかと丸と線

夏休みを利用して子供達が苦心して統計図表を画き、統計図表コンクールに出品する。統計教育の一環として行なわれるこの

行事は、統計思想普及の上から非常に有意義なことで、毎年、数多くの作品が出品され、大人達をうならせる。パイ図、線図、棒図などそれぞれに資料を加工して立派な作品が寄せられる。先生の指導が行き届き図表本来の約束に従つた作品ばかりである。

### 夏休み苦心のグラフにある誇り

統計図表は、統計を視力によつて理解するため簡単明瞭に表現するものであり、あまり難解なものは困る。統計図表のコンクールなど展示作品は彩色なども大切であるが、資料に大きなウエイトがかかる。子供達が、夏休み中に観察した子供の世界での統計が可愛らしく表現されているもの、高学年になるに従つて社会現象の中での問題点を訴えようとするものなどいろいろあるが、子供達の苦心の跡が図表に表われて近代社会に生きるこれからの子供達の成長が大いに楽しみになる。



(19)

# 統計スタッフ

## 岩上知事欧米視察へ

7月27日から約40日間にわたり、欧米の原子力事情、新官庁都市などを視察する岩上知事は、26日午前10時過ぎ、県庁職員の見送る中を、自動車で東京へ向つた。27日羽田発の日航機で香港に向いバンコック、カルカッタ、カラチ、カイロを経てローマ入りする。知事一行はローマで新官庁都市エウルを、ジュネーブで核燃料再処理施設を、ロンドンで原子力施設を、視察し、ほかに各地で、田園都市、農業事情など広い範囲にわたつて視察し、9月5日ホノルル経由で帰国する。



## 鷺毛玉鳳花（サギ草）

（表紙うらの写真参照）

鷺草は日本特産の名草で、野生蘭として江戸時代から親しまれてきたラン科の植物で、全国いたるところに自生している。葉は蘭に似て2、3寸、夏の暑いさかりに尺余の花莖を抽いて真白な花が咲き、白鷺が双翼をひろげて青い田面に飛びかうさながらの姿は高尚優雅で可憐でもあり、清らかでもあり夏の風情をそえるなかなか人気のある植物となつた。最近、雑誌、新聞などでさかんに宣伝され、その乱獲もはげしく地域によってはその花を見られなくなつたのは残念である。また、この種類は早生咲、中生咲、晩生咲などもあり、園芸品種としては白覆輪、銀覆輪、金覆輪、紺覆輪と葉に色々な変化があるものがあるが、これはいかにも人工的ながめても味がない。やはり、野生の青葉種が一段と貴品があり、最も感じがよい。繁殖は実生でもよいが、球根に寄るのが普通で採集品は花はすくないが栽培すると一莖に九花位つくが野趣が失なわれるので、やはり2、3をつけるようにした方がよい。花の咲く順は、統計的にみると千葉、東京、茨城、栃木、新潟、山形、宮城、静岡、愛知、石川、三重、滋賀、岡山、四国、九州、もちろんこれは各産地別に培養して得た結果であり、したがつて7月中旬から10月下旬まで咲き続き100日間の観賞期間があることが特色である。

## 11月11日に第8回統計大会開催!

県下統計マンの祭典である統計大会は、来る11月11日、県民文化センターの大ホールで、統計関係者多数の参加のもとに開催されることになった。大会要項は後日新聞及び関係者にくづられる。

## 教職員の統計図表講習会

県統計教育研究部では、統計教育の充実に向上と統計表作成の手法、技術の習得、指導力の向上をはかるため、県内4ブロックで講習会を開いた。

講師は県統計課広報資料係長田中文司氏と結城市立教諭伊東健氏が当つた。参加者は県下の教職員で、日程で行なわれた。

8月1日	日立市	水木小学校
8月5日	土浦市	真鍋小学校
8月6日	下妻市	小妻小学校
8月8日	水戸市	県校長会館

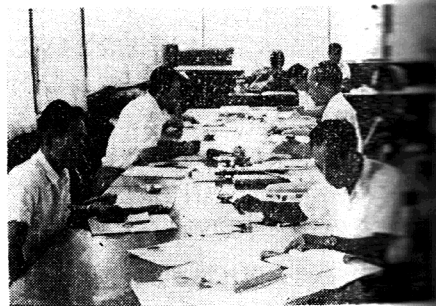
## 昭和41年度統計主事資格認定講習会

9月20～29日に実施

近年、とくに統計の必要性が高まり各方面で利用されることが急速に多くなつた。しかも高度な統計の技術向上をはかるために、今年度も、9月20～29日の通算6日間、水戸市三の丸茨城県庁で統計主事資格認定の講習会が開かれる。

## 事業所調査の取まとめが始まる!

去る、7月1日現在で実施された事業所調査の取まとめ、市町村統計担当職員の努力の結果、8月1日より取まとめ及び審査を県統計館で開始した。産業調査抽出等暑い折から感ちがいもでてくる。この取まとめられた結果の数字は、県から10月初旬に計局より10月下旬に速報として発表される予定である。



人事異補追（7月1日付）

転入 新  
青 山 政 顕 農林統計係長 管